

## 2024年度 学校自己評価表

中長期目標(学校ビジョン)
<p>1. 鳥取県内有数の進学校としての地位の確立</p> <p>①国公立大学・難関私大現役合格率6割以上確保 (すべての生徒が妥協せず本当に行きたい大学に進学する)</p> <p>②進研模試、校外模試において学年平均偏差値60以上確保 (偏差値70以上の生徒3名以上)</p> <p>③各種検定の規定級以上を全生徒が取得する。</p> <p>2. 「学力面で優れた生徒＝人格的にも優れた生徒」という湯梨浜学園の生徒像確立</p>

今年度の重点目標
<p>1. 学習指導の充実と進路指導の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇国公立理系医・歯・薬、旧帝大レベルを含んだ国公立大進学者5割を目指す。</li> <li>◇各学年、学力推移、進研模試における各教科及び3教科総合全国偏差値平均を1年間でアップさせ、偏差値平均50以上、偏差値60以上5名以上の実現。</li> <li>◇各種検定取得率アップを目指す。規定級を超える生徒数の増加を目指す。</li> <li>英検、数検、漢検準においては準1級以上2名、N検、理検1級2名以上の上位級取得者をだす。</li> <li>英検110名、数検50名、漢検40名、理検10名、N検10名以上の合格者をだす。</li> <li>◇速読講座、スタディサプリ、土曜個別講座など多様な補習体制で生徒の弱点克服を目指す。</li> <li>◇SDGsを主体とした課題研究に全校を挙げて取り組みSSH認定校を目指す。</li> <li>◇日中友好学校和安中学との交流を始めとし、海外研修、スタンフォード大学交流、アロハフレンドシップ事業など国際教育をさらに充実させる。</li> </ul> <p>2. 学校運営の充実と教育環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇中部地区からの生徒流出を防ぐべく、高校からの入学生を4名以上獲得する。</li> <li>◇学校通信、学級通信など各種広報紙の定期的発行、HP、FB、インスタグラム、BLEND、You Tube、Zoomなどをつかった情報提供迅速化、頻繁な更新に努める。</li> <li>◇20周年記念式典実行委員を立ち上げると共に生徒主体の同窓会組織の移行を進める。</li> </ul> <p>3. 生徒指導の徹底と教育相談の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇「あいさつ」「返事」「掃除」を指導の3つの柱に据え、規範意識を高めて、社会に必要とされる人間形成に努める。</li> <li>◇適宜個別面談などを通し、生徒理解に努め、教育相談、スクールカウンセラーとの連携で悩みの解決や相談にあたる。養護、担任だけでなくすべて教員が相談室登校の生徒への対応を行い、クラス授業への移行支援を行う。</li> </ul> <p>4. 人権教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇あらゆる場面、あらゆる教科で、すべての先生が人権教育視点に立った教育を行う。</li> <li>◇いじめのない学校をめざす</li> </ul>

評価は S(達成) A(ほぼ達成) B(あと一步) C(未達成) です。

評価項目	具体的項目	中間評価	達成状況(年度末)と次年度の課題	評価
1. 学習指導の充実と進路指導の強化	国公立理系医・歯・薬・獣学科等、国公立文系準難関大以上の現役合格	A	卒業生23名中、薬学部2名等含む国公立大学10名合格。	A
	校外模試における数値目標達成	B	高校2年生クラスは目標達成したが、それ以外のクラスは平均偏差値、偏差値60以上の生徒数ともに未達成。	B
	各種検定取得率アップ	B	上位級取得者は増えたが、すべての検定において受検者が減少した。SSH指定に伴い生徒に多忙感があつたのかもしれない。取得率は上昇した。	A
2. 学校運営の充実と教育環境の整備	各分掌活動の充実、PTAとの連携、地域との交流を図る	A	SSH1年目にあつて、全校体制での事業実施を試みた。以前からの業務と並行しながらもすべての行事に対して縮小することなく実施することができた。学園祭などで梨友会の方々にご協力いただき、模擬店や広報活動など円滑に実施できた。また新たなPTA事業として著名人をお呼びして保護者研修会を実施するなど発展性もあつた。	S
	SDGsを主体とした課題研究への取り組み	A	SSH最終発表アンケートで保護者、外部機関の方々からも、昨年度からの生徒発表の充実ぶりをお褒めいただいた結果が多く、生徒も励みになった。日本海新聞などのメディア露出も飛躍的に伸びた。	A
	国際教育の充実	B	コロナ禍以降初めてとなる、中国の姉妹学校である和安中学校との交流事業ができた。県のスタンフォード大学、バーモント大学との交流も行ったが、公立高校とは異なり、本校が土曜日学校が開校していることで、本来、他校の生徒が土曜日に参加できるものについて参加できなかった。次年度は週5日制を取り入れ、他の公立高校との交流ができるようにも取り計らう。	B
	HP、FB、インスタ、Blendなどでの積極的情報提供	B	SSH関連項目についてはSSHニュースを年間7回配信するなど、発展がみられたが、他のSNSについてはマンネリ化がみられる。その中でも保護者の方によるインスタグラム運営など新しい目線での情報提供ができた。	B
	記念式典、記念事業に向けての準備	B	20周年記念事業として体育館フロア補修、大型バスの購入などを行った。	S
3. 生活指導の徹底と教育相談の充実	生徒指導の3つの柱を、教職員間でのブレなく徹底する	A	あいさつ、返事、掃除の3つの柱の中で、特に掃除に関しては来校者から評価をいただくことが多いが、もう少し教員指導の面で強化すべき点もある	A
	生徒との教育相談の機会を充実させ、自己肯定感を醸成する	C	スクールカウンセラー、養護、担任が主体となって生徒、保護者に対して活動を行ったが、生徒との教育相談の機会を充実させたとまでは言い難い。担任や管理職など特定の教員に偏らない支援体制の構築が必要。	B
4. 人権教育の推進	学校生活でのあらゆる場面で、人権教育的視点にたつ	B	人権教育について公開授業と研究討議を実施することができた。保護者の方からのご意見で、教員の方としての発言の中にも注意していかなければならない表現などがあつたので、次年度は研修などを通じて職員のスキルアップに努めていく。	B
	いじめアンケート、ケース会議を実施し、生徒の心の動きを敏感に察知する取り組みを設ける	B	いじめアンケート、学校評価アンケート、体罰アンケートなど全て実施することができた。	A